
白黒な世界。

アルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白黒な世界。

【Nコード】

N4652V

【作者名】

アルト

【あらすじ】

柏木 透子は見た目も名前も普通の女の子。少し変わっているところがあるというなら、存在感が薄いということ。そんな透子は美しくも人間ではないナイトによって異世界へ強制連されてしまう。透子のこれからの生活は…？

序章

そこは、白と黒で別れた世界だった。

透子^{とこ}の前にはそれらを物語るモノクロな世界が広がっていた。視界には、白や黒を基調とするデザインの建物や床がずらりと並んでいる街並みがあった。

見慣れぬ色調、風景に目を瞬^{またた}いていると、聞き覚えのある声の一つ聞こえてきた。

ああ、そうだ……と、透子は思い出す。

時は少し遡^{さかのぼ}る。

柏木^{かしわぎ} 透子^{とこ}——自分でいうのもおかしいが、名前は極々普通だ。そして、容姿も。少し変わったところがあるというなら、存在感が薄いということ。中学の同窓会も呼ばれてなかった透子は、少し自分の名前を恨んだ。

透子——それは、透子の母親がつけた名前だった。名前の由来は不明。そんな透子も高校二年生になっていた。

先ほども言った通り、存在感が薄いということを除けば、普通の高校生のように毎日を過ごしている彼女だった。

しかし、ある日彼女に転機が訪れる。

それは、いつもと変わらないある日のことだった。

透子は、変な夢をみる。

目の前に、人間で言うところと二十歳くらいの青年が立っている夢だ。

しかし、その青年が人間と違うのといえるのは、耳の上部が先端にいくにつれてピンとがっていることだった。その耳は、まるで妖精のもつ耳のように見えて、透子は見入ってしまった。

すると、青年は近づいてきて、透子の前のところで立ち止まる。

先ほどはよく見えていなかった青年の顔は、今まで見てきた人の誰よりも整っており、透子はドキツとした。

「形あるものはいつか朽ちる。私もいずれこの世界から消えてなくなってしまうことでしょう。それでもあなたは……」

言葉の途中で目が覚める。

すると、そこには透子の見知らぬ世界が広がっていた。視界に映るもの全てがモノクロでできているのだ。

「ここは……？」

そう思っていると、今^{いま}し方^{がた}聞こえた声が耳に入り、振り返る。

「透子様、こちらの世界はお気に召したでしょうか……？」

さつきみた夢と同じで、シルクハットを被^{かぶ}り、スーツを身にまとった男はそういつて、微笑んだ。

「あのっ……お名前は？あなたのお名前は……？」

自分の知っている言葉を探して、精いっぱい質問する透子。

「ナイト・デュークと申します。以後、お見知りおきを」

透子に対し、おそらく博識だと思われるナイトはさらりとその質問に答えるのだった。

序章（後書き）

この小説は、以前ノートに書きためていたものをアップしたものです。

書きためていたといっても、序章分くらいしかなかったので、正直、焦っています。

不定期更新になると思いますがどうか広い心で見てください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4652v/>

白黒な世界。

2011年10月1日13時56分発行